

リハビリ機器導入事例

当院で使用しているリハビリ機器の「ReoGo-J (レオゴー ジェイ)」、「Honda 歩行アシスト」について、改めて紹介させていただきます。

以前「試験中」と紹介した「上肢用ロボット型運動訓練装置 ReoGo-J」が今年度正式に導入となりました。この装置を利用し、モニターに映っている目標点に向かってリーチ動作を行うことで、脳卒中等の患者様の麻痺側上肢の関節癒着・拘縮の予防、および関節可動域を改善させ、ADL・QOL向上を目指すものです。

現在、リハビリ時間にセラピストと訓練を行い、自分で操作ができるようになった患者様には自主トレーニングとしても使っていただいています。患者様からは「いろんな方向に手を動かせるからいい」「少し手を動かしやすくなった」「肩まわりに力が入るようになってきた」等の意見を頂いています。

本格導入に当たり先日改めて学習会を行いました。まだまだ全員が使いこなせるレベルにはなっておりませんが、効果の報告ができるよう活用していきたいと思っています。

次に、2017年10月より導入しました「Honda 歩行アシスト」について紹介します。これは倒立振り子モデルに基づき効率的な歩行をサポートする歩行訓練機器です。歩くフォームを制御コンピューターが誘導し、より質の高い歩行能力の獲得を目指します。

一例を紹介します。回復期病棟に入院中の脳出血後の患者様に一か月間使用しました。使用前は車椅子移動が主で歩く機会もリハビリ時のみでした。しかし歩行アシストを使用し、「楽に長い距離が良いフォームで歩ける」を体感し続けることで、歩行能力は大きく改善しました。結果、退院する時には杖も使用せず歩いて自宅へ帰り、庭の畑仕事ができるまでになりました。

歩行アシスト使用中は、患者様の笑顔が増えます。患者様にとって歩くということは、単に移動手段というだけではなく、大切な人生の一部なのだと感じました。



通所リハビリテーション

通所リハビリテーションは、6～7時間(月～金曜日、9:30～16:00)、1～2時間(月～金曜日、午後13:00～14:30、14:40～16:10)、介護予防(月～土曜日、9:00～12:00)のサービスを提供しています。

2018年度は医療・介護報酬の同時改定があり、院所方針として短時間サービスを強化していくことが打ち出されました。在宅生活でのQOL向上を図るため、短時間1～2時間サービスや、介護予防サービスの拡充を行います。さらに、セラピストのマネージメント機能を強化し、利用者様の生活目標にアプローチできるようにします。当事業所のサービスの内容・質の変容に伴い、他事業所様ともより一層のサービスの協働をさせていただきたいと考えています。施設見学は随時対応していますので、ご相談いただけたらと思います。どうぞ、今後ともよろしくお願いいたします。



訪問リハビリテーション

今年は医療・介護報酬同時改定の年であり、当院の訪問リハビリも改定に伴い体制の対応を行っています。今回の改定から介護保険訪問リハビリ事業所における医師配置が必須化され、当院でも訪問リハビリ指示を出すにあたり医師の診察、医師との連携を強化できるよう体制を変更しています。

またリハビリマネジメントの強化も加算に加わり、事業所内での訪問リハ利用者のマネジメントやカンファレンスの強化について取り組んでいるところです。これから超高齢化社会を迎え団塊の世代へと向かっている中で、元気で健康な地域づくりへ力を発揮できるよう、訪問リハビリ事業所としてサービスの提供を行っていかねばと思っています。

今年から作業療法士が1名増え、スタッフ体制も拡大しています。在宅生活での様々なことに対して訪問リハビリは関わることが出来ます。退院後の生活の不安に対して、在宅生活で不安なこと、新しくチャレンジしたいこと、運動の指導、健康増進のための運動習慣をつけたいなど相談いただければと思います。



地域連携相談部より患者様受入れについて

「トマトが赤くなると医者が青くなる」というヨーロッパのことわざがありますが、当院でも入院のベッドが混んでいるときと空いているときの波があります。ゴールデンウィーク明けから必ずしも満床ではないこともあり、その活動の一環として5月末から病院訪問をしています。

当院は85床の回復期リハビリテーション病棟(1, 3)があり、一日2～3時間マンツーマンで、週末や祝日もリハビリテーションを行なっています。脳血管疾患治療後・大腿骨の骨折や手術後・背骨の手術後・肺炎や外科手術後による廃用症候群の患者様を主に受け入れています。(適応疾患等についてはHP参照または当院にお問い合わせください)

元気になって再び自宅に戻れる人だけでなく、後遺症のため施設入所や生活の立てなおしを余儀なくされる方もいらっしゃいます。当院では身体面のリハビリテーションだけでなく、今後の生活をどうしていくかについて退院後の生活に不安を持った方にもソーシャルワーカー体制が充実していますので、是非ご相談いただけたらと思います。





反核・脱原発かがわピースラン2018



梅雨明けも迫る6/30(土) 13:30、もうすっかり恒例行事となりました「反核・脱原発かがわピースラン2018」が職員やOB、岡山からの参加者を含む総勢38名の参加で行われました。高松平和病院から市役所、県庁を経て郷東町交差点から産業道路を南下、ゆめタウン前を通り再び平和病院前からゴールの高松協同病院まで総距離約20kmの道程を「原発新設、再稼働反対、核兵器廃絶」と書かれた旗を手に宣伝カーと共に市内各所を訴えて走りました。この行動は私たち香川医療生協が目指す戦争や核兵器、放射能など安心なくらしを脅かすものに真っ向から反対し、平和で安全なまちづくりの実現を訴えるものです。世界各国の関係は混迷、複雑化し人々の不安は大きくなっているうえ、東日本震災・福島原発事故から7年半が経ち人々の関心も薄れつつある状況だからこそやる価値があると思います。安心して暮らせる国が実現するまでみんなで力を合わせて継続していく決意です。

連携相談部長 藤原勝之



～デイサービス木太協同は デイサービス協同に～

この度、2010年1月開設から、デイサービス木太協同は、高松協同病院、組合員、利用者、職員の皆様と共に事業を続けてきましたが、2018年5月31日をもって、デイサービス協同と統合し、デイサービス木太協同は閉鎖することになりました。本当に長い間ご利用頂きありがとうございました。また、閉鎖にあたり、利用者、組合員の皆様におかれましては、ご不便をお掛けしましたことを深くお詫びするとともにご理解の程宜しくお願い致します。

代わって、デイサービス協同は6月から、予めからご要望の強かった土曜日・祝日の営業を開始し、営業時間は1時間延長し、9:30から15:30を9:30から16:30に拡充させて頂きました。

これまでと同様にスタッフ一同、利用者様のご要望にお応えできるように、介護サービスの向上に努めて参りますので、これからもご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



2018年度 特定健診のご案内



高松協同病院では、7月2日(月)～10月31日(水)まで、高松市特定健康診査・後期高齢者医療健康診査および、大腸がん検診、前立腺がん検診、肝炎ウイルス検診を実施しています。

病気の早期発見とともに「より健康な状態をつくる」ための一つの手助けとして、年に1回は健診を必ず受けることをおすすめしています。昨年はがん検診にて、早期大腸がん1名と前立腺がん1名を発見しました。

また、高松協同病院では市からの委託検査に対し、独自で右図の4項目を無料で追加・実施していますのでぜひご利用ください。

高松市国保・後期高齢者の特定健診は

7月～10月

尿酸	痛風や尿路結石、腎臓障害など
血液一般(白血球数)	貧血や病気による体内の出血、慢性の炎症など
尿:蛋白	腎臓や尿路系の病気など
尿:ウロビリノーゲン	肝障害や黄疸など、肝臓の働きの異常

薬局紹介

みなさんは薬剤師の仕事をご存知ですか？ただお薬を作って渡してくれる人と思っている方が多いと思いますが実際、その役割は多岐に渡っています。お薬手帳や薬歴を活用し、患者様一人ひとりの過去の副作用や効果が得られなかった薬、複数の診療科にかかっている場合には薬の相互作用チェックなど、多くの情報を基に患者様が薬をより安全・適正に使用できるように確認し、お薬を調合しています。また、薬個々の特性と患者様それぞれの病状、検査データから、薬の体内での動きを予測して、副作用が出ないか見張っています。さらに、医師をはじめ医療スタッフと連携し、チーム医療の一員として患者様の治療に薬のエキスパートとして専門的な知識と技能で貢献しています。

このように病院薬剤師は院内で患者様の治療に関わっていますが、私たち高松協同病院の薬剤師は地域医療にも力を入れています。地域の組合員の方々を対象に薬の説明会を開いたり、訪問診療の処方管理などをおこなうなど幅広く活動しています。どの患者様もより安心して医療を受けられるように、そして1日も早く回復できるように、責任をもって仕事をしていきます。薬のことだけでなくお体の悩みなど相談に乗りますので、いつでも気軽に立ち寄りください。



お知らせ

第14回地域連携懇談会(急性期)を開催します

とき：8月3日 18時より 場所：高松協同病院 3階会議室

高松協同病院では地域の医療機関や施設の皆様との連携をより深めるため、地域連携懇談会を開催しています。懇談会は「急性期」と「維持期」に分かれ、それぞれ年に1回開催します。

高松協同病院の方針の説明や見学だけではなく、高松協同病院に紹介いただいた患者様のその後の様子、普段は忙しくてなかなか話題にできない連携の問題点を病院別グループディスカッションにて検討、意見交換を行っております。

急性期、維持期ともにご協力いただいている病院、施設の皆様には開催の案内をいたしておりますが、届いていない方で参加のご希望がありましたら、お気軽にお電話でお問い合わせください。皆様の参加をお待ちしております。

連携相談部 TEL：087-833-2510



(画像は昨年の地域連携懇談会の様子)